

ヒト = 専門職（仮）について考えるグループ

< 討議日 > 2004年9月28日（火）～29日（水）

< メンバー > 池田典子（東京音楽大学）
長田辰子（大東文化大学）
小倉宇思（武蔵大学）
坂口綾子（東洋大学・リーダー）
竹田光江（中央学院大学・サブリーダー）
平井誠（白百合女子大学） 以上 50 音順

< 内容 >

何故「ヒト」グループを選んだかについて一人ずつ意見を言った結果、次のような疑問や問題点を抱えていることがわかった。

- ・ 学習、教育、研究支援としての図書館の在り方
- ・ 図書館の広報活動（館報等をあまり学生が読まない）
- ・ 図書館業務において学生サービスという意識が低い
- ・ 大学内において図書館が孤立している
- ・ 情報発信施設のはずだが学生に認知されていない
- ・ 図書館内で働く専任・非常勤・派遣それぞれの職員が働きやすい環境をつくるには？
- ・ 教員をいかに図書館の味方につけるか 等

以上のことを踏まえた結果、今回このグループでは「ヒト = 専門職」だけではなく、「利用者としてのヒト・図書館員としてのヒト」と2つの側面で捉えることにし、また利用者と図書館員をつなぐものであるサービスや広報、ガイダンス等について今後研究していくことになった。

また、考えるにあたって「利用者からみた切り口」と「図書館員からみた切り口」というように分けていくことにし、利用者の区分としては「学生・教員・職員・地域利用者・卒業生・その他」と大まかに6つとした。また、「利用者からみた切り口」と「図書館員からみた切り口」このふたつをつなぐ「接点」とは何なのか、という検証も必要であろうということになった。

< 次回までの課題 >

利用者へのサービスをより良いものにするために、図書館員の業務理解やスキルアップは必要であり、また加藤氏より提示のあった「9つの専門職」も理解するためにも、まず各自勤務している図書館の組織図と、それぞれの担当スタッフの業務分担について一覧にし、次の例会までに書いて、良い点や改善すべき点を話し合うことになった。